

肝炎医療コーディネーターの肝疾患診療連携拠点病院事業における貢献 に関する研究

研究分担者	井上 泰輔	山梨大学医学部第一内科	講師
	坂本 穰	山梨大学医学部付属病院肝疾患センター	病院教授
研究協力者	中山 康弘	山梨大学医学部付属病院肝疾患センター	特任講師
	有菌 晶子	山梨大学医学部付属病院肝疾患センター	看護師
	石黒 博子	山梨大学医学部付属病院肝疾患センター	看護師
	浅山 光一	山梨県福祉保健部健康増進課	課長補佐

研究要旨

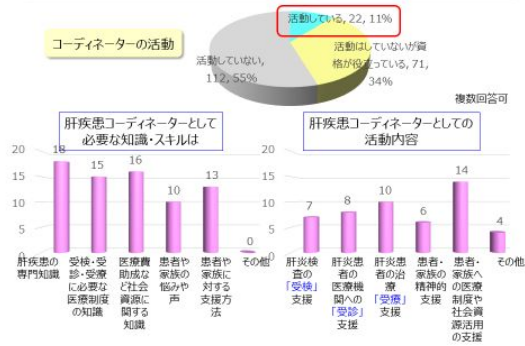
2009 年に山梨県において全国に先駆けて養成を始めた肝炎医療コーディネーターは現在全都道府県で養成がおこなわれるまでに発展し、2017 年には厚生労働省から「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について」が発出されている。しかし実際の役割や機能は明確でなく、全国で統一された活動指針はなかった。そうした中 2017 年度の本研究班分担研究で我々が肝炎医療コーディネーターの活動状況の実情をアンケート調査したところ、コーディネーターとしての自覚の元で実際に活動しているとの回答は 11%と低率であった。一方で各種肝疾患拠点病院事業において相談員や講師として積極的に参加している事例も多数確認されたため、本年度も継続して活動内容を調査した。その結果、拠点病院内および院外での相談業務における相談員、コーディネーター養成講座や患者・家族対象の肝臓病教室での講師、C 型肝炎治療終了者サポート事業での指導員等の役割で実際に知識を生かして活動していることが確認された。全国的な肝炎医療コーディネーターの活動指針として共有していくことが望まれる。

A . 研究目的

ウイルス肝炎対策において患者の受検、受診、受療に繋げるため、また行政等で導入してきたさまざまな医療制度を的確に患者へ発信するため、2009 年に山梨県において全国に先駆けて養成を始めた肝炎医療コーディネーターは現在全都道府県で養成がおこなわれるまでに発展し、2017 年には厚生労働省から「肝炎医療コーディネーターの養成及び活用について」が発出されている。しかし実際の役割や機能は明確でなく、全国で統一された活

動指針はなかった。そうした中 2017 年度の本研究班分担研究で我々が山梨県の肝炎医療コーディネーターの活動状況の実情をアンケート調査したところ、コーディネーターとしての自覚の元で実際に活動しているとの回答は 11%と低率であった。一方で各種肝疾患拠点病院事業において相談員や講師として積極的に参加している事例も多数確認されたため、本年度の活動内容を調査し今後の全国的な肝炎医療コーディネーターの活動指針の構築に繋げることを本研究の目的とした。

山梨県肝疾患コーディネーターアンケート 3



B. 研究方法

山梨県の肝疾患診療連携拠点病院である山梨大学医学部付属病院・肝疾患センターの事業活動として2018年度におこなった各種相談業務と、コーディネーター養成講座等での講師等、さらに山梨県で開始しているC型肝炎治療終了者サポート事業での保険指導における、山梨県で認定された肝炎医療コーディネーターの活動状況を調査した。

C. 研究結果

1. 肝疾患相談支援業務

1) 山梨大学医学部付属病院医療福祉支援センター内に相談窓口を開設。通年の月～金 10:00～16:00に医師1名、相談員(看護師・肝炎医療コーディネーター)1名が常勤、他4名が兼任で対応。2018年度(～2019年1月末現在)713件の相談中、医師の対応を必要としたのは6件(0.8%)のみであった。

2) 院内肝ぞう・がん相談会

2018年10月16日(火)、11月6日(火)、12月18日(火)、2019年1月16日(水)、2月20日(水)5回開催。
 対応者: 肝炎医療コーディネーター2名(看護師、社会保険労務士各1名)、弁護士1名、職業安定所相談員1名
 相談者: 計11名

知って肝炎 Hapatitis Think Again

治療や療養と仕事の両立でおこまりのことはありませんか

肝ぞう・がん相談会

無料

しごとを休むに時の社会保険はどなるの?

病気を治療しながらもしごとを続けるもの?

各回、社会保険労務士・弁護士・ハローワークなどご相談に応じます。肝ぞうに関しては当院の肝疾患コーディネーター(臨床検査技師・栄養士・薬剤師・看護師等)が相談に応じます。尚、医師の相談対応は行っておりません。(相談員は毎回変わりますので、お問い合わせください)

- 第1回 平成30年10月16日(火)
- 第2回 平成30年11月6日(火)
- 第3回 平成30年12月18日(火)
- 第4回 平成31年1月16日(水)
- 第5回 平成31年2月20日(水)

開催時間 14:00～16:00

*相談をご希望の方は、相談日当日病院正面玄関ホール7番相談窓口へおたずねください。(予約制ではありません) 日時の変更はホームページをご確認ください。

主催 山梨大学医学部付属病院肝疾患センター 医療福祉支援センター 連絡先 055-273-1111

B型肝炎で給付金がもらえるの?

医師の相談はあるの?

の病気で肝臓が痛むの?

3) 肝臓なんでも(無料)相談会(院外)

第1回 2019年1月26日(土)
 会場: ホテル春日井(笛吹市)
 対応者: 肝炎医療コーディネーター4名(保健師、社会保険労務士、臨床検査技師、薬剤師各1名)、医師1名、弁護士1名
 相談者: 18名

知って肝炎 Hapatitis Think Again

無料

肝臓なんでも相談会

日時: 平成31年1月26日(土) 14時～16時(受付13時30分～)

場所: ホテル春日居 1階 コンベンションホール「セレス」 笛吹市春日居町小松855 同時開催

<ミニ肝ぞう病教室> 14時～15時～
 ～検診で肝機能異常を言われたら～
 山梨大学 第一内科 中山康弘先生 (肝疾患センター 副センター長)

肝臓病のごでお困りの方、病気のこと、治療のこと、医療費のこと、しごとのこと、肝炎訴訟のこと、日常生活について等 医師、弁護士、社会保険労務士、保健師等 肝疾患コーディネーターがなんでもご相談に応じます。プライバシーは厳守いたします。

主催 山梨大学医学部付属病院肝疾患センター 連絡先 山梨県中央市下河原1110 電話 055-273-1111 後援 山梨県

この事業は厚生労働省が行う肝炎患者の就労に関する総合支援モデル事業の一環として行われています。

第2回 2019年3月10日(日)

会場：アピオ甲府(甲府市)

対応者：肝炎医療コーディネーター5名
(保健師、社会保険労務士、臨床検査技師、
薬剤師、栄養士各1名) 医師4名、弁護士2名

相談者：42名

知って、肝炎! Hepatitis Think Again

無料

肝臓なんでも相談会

日時：平成31年3月10日(日)
13時30分~15時30分(受付13時~)

場所：アピオ甲府
本館3階 王朝の間
(中巨摩郡昭和町西条3600)

肝臓病のことでお困りの方、
病気のこと、治療のこと、医療費のこと、しごとのこと、
肝炎訴訟のこと、食事のこと等日常生活について
医師、弁護士、社会保険労務士、保健師等
肝疾患コーディネーターが
なんでもご相談に応じます。プライバシーは厳守いたします。

主催 山梨大学医学部附属病院肝疾患センター
連絡先 山梨県中央市下河東1110 電話 055-273-1111
後援 山梨県

この事業は厚生労働省が行う「肝炎患者の就労に関する総合支援モデル事業」の一環で行われています。

2. 肝炎医療コーディネーター養成事業

1) コーディネーター養成講習会

2018年11月15日(木)~12月13日(木)

会場：山梨大学医学部臨床大講堂

4日間、合計8講義、うち3講義で肝炎医療
コーディネーター4名(保健師1名、看護
師1名、医療行政職2名)が講師を担
当

受講者：35名 認定者：33名

2009年度からの合計認定者：384名

H30年度肝炎医療コーディネーター養成講習会 講義名		講師
開講式	16:45~17:00 開講式 あいさつ	司会 井上泰輔 肝疾患センター長 山梨大学医学部附属病院 武田正之 病院長、健康増進課 下川和夫 課長
講義①	17:00~17:45 肝炎の現状と肝炎対策、肝炎医療コーディネーターについて	山梨県福祉保健部健康増進課 浅山光一 課長補佐
講義②	17:45~18:00 肝炎医療コーディネーターの活動報告	早川町福祉保健課 深澤幸志 課長
講義③	18:00~19:00 B型肝炎	山梨大学医学部第一内科 前川伸哉 医師
講義④	17:00~18:00 C型肝炎	山梨大学医学部第一内科 井上泰輔 医師
講義⑤	18:00~19:00 肝硬変、アルコール性肝炎、NASH、自己免疫性肝炎	山梨大学医学部第一内科 辰巳明久 医師
講義⑥	17:00~18:00 肝臓の内科的治療	山梨大学医学部第一内科 中山康弘 医師
講義⑦	18:00~19:00 肝臓の外科的治療	山梨大学医学部第一外科 雨宮秀武 医師
講義⑧	17:00~17:30 肝炎患者のケア理論	山梨大学看護学部基礎・臨床看護学 坂本文子 准教授
講義⑨	17:30~18:00 肝炎患者のケア実践	山梨大学附属病院 龍岡病院 金子善美 副院長
講義⑩	18:00~18:30 肝炎に関する公的医療制度、両立支援	山梨県福祉保健部健康増進課 久保田好 技師
講義⑪	18:30~19:00 患者の立場から	北杜肝炎会 中嶋平和 会長、小島久 事務局長
試験	18:00~19:00	
認定証交付	17:00~ 17:15~江口梧作 全国のコーディネーター動画	司会・講師・終了証交付：井上泰輔 肝疾患センター長 講師：武田正之 病院長 講師・認定証交付：下川和夫 課長

2) 肝炎医療コーディネーター研修会

2018年12月1日(土)

会場：アピオ甲府(甲府市)

パネルディスカッション「肝炎医療コ
ーディネーターの在り方」に肝炎医療コ
ーディネーター5名(看護師1名、医療事務
職2名、医療行政職1名、職域1名)が
パネラーとして参加

出席者：37名

2018肝炎医療コーディネーター研修会

肝疾患コーディネーター ネットワーク集会

日本肝臓学会と山梨大学医学部附属病院肝疾患センター、山梨県では、
肝疾患コーディネーターを対象に最新の肝臓病診療に関する講演とともに、
多職種のコーディネーターの意見交換を行うパネルディスカッションを開催いたします。

総合司会 山梨大学医学部附属病院肝疾患センター長 井上泰輔 先生

「肝炎医療コーディネーターに関するDVD上映」

特別講演「最新の肝炎・肝がん治療」

山梨大学医学部附属病院 第一内科

辰巳 明久 先生

パネルディスカッション

テーマ 肝炎医療コーディネーターの在り方

～肝硬変、肝臓への進展を予防するために何をすべきか～

特別発言 知って、肝炎プロモーター 藤岳夕歌 先生

パネラー 専門医、拠点病院・一般病院・行政・職域の肝疾患コーディネーター

日時 12月1日(土) 午後2時~4時

会場 アピオ甲府 本館3階「王朝の間」 中巨摩郡昭和町西条3600

入場無料

主催 日本肝臓学会 共催 山梨大学医学部附属病院肝疾患センター、山梨県
問い合わせ先 山梨大学医学部附属病院 第1内科 電話 055-273-9584 (直通)

3. 肝臓病教室の開催

拠点病院での患者・家族を対象とした教
育・啓発活動

2018年8月30日(木)

会場：山梨大学医学部附属病院消化器病
棟カンファレンス室

テーマ：肝疾患と腹水・浮腫

肝炎医療コーディネーター2名(病棟看護
師1名、臨床検査技師1名)、医師1名が
講演と質疑応答

参加者：16名

4. C型肝炎治療終了者サポート事業

C型肝炎治療終了者サポート事業（事業実績）

- 事業開始 平成29年10月2日（～平成33年度まで）
- 肝炎治療受給者証利用者 2,469名に事業開始案内送付
- 事業に申込み・同意書提出者 601名（2019年3月末現在）
- 検査受検者 236名（2019年3月末現在）
 - ・ 平均年齢 67.1才（男性133名、女性103名）
 - ・ 定期健診未受診者の受診勧奨 30名

肝硬度測定		肝脂肪沈着	
10kPa未満	204人	200dB/m未満	86人
10以上15kPa未満	15人	200以上250dB/m未満	94人
15kPa以上	16人	250以上300dB/m未満	41人
		300dB/m以上	14人
平均	6.80 kpa	平均	214.7 dB/m
最大	50.5 kpa	最大	369 dB/m

山梨県でC型肝炎に対する医療費助成受給者のウイルス排除後の定期通院継続指導のため2017年10月から開始。希望者に受診票を発行し、山梨大学医学部付属病院でファイブロスキャンによる肝硬度および脂肪化の測定を無料でおこない、肝炎医療コーディネーター2名（看護師）が受診継続の指導を担当。

申込数：601名 検査受検数236名
236名中30名（11.7%）が定期通院から脱落していたが、本事業へ参加し、コーディネーターの指導を受けることにより通院再開へと繋がった。

D. 考察

2018年度に山梨大学附属病院肝疾患センターがおこなった多くの事業に専門性の異なる多職種の肝炎医療コーディネーターが参加していた。通年で常設されている相談窓口へは年度途中まででも700件を超える相談数があったが、そのほとんどを事務職員と看護師のコーディネーターで対応可能であり、医師の関与が必要であったのはわずか6件（0.8%）のみであった。病院内・外で開催した相談会へは保健師、看護師、社会保険労務士、臨床検査技師、薬剤師、栄養士と非常に多彩な専門性に加えて養成講習とその後のスキルアップ事業参加により肝疾患の知識を合わせ持つコーディネーターが参加して

いた。通常の外来受診で患者・家族が接する医師や看護師ではカバーしきれない幅広い相談へ対応可能であった。

コーディネーター養成講習会の講師として開設当初の8講義中6講義は医師が担当し、1名の行政職が1講義、1名の看護師が1講義であったが、今年度は医師がおこなう講義は5講義に減り、認定コーディネーターを含む2名の看護師が1講義、コーディネーターの医療行政職が中心に認定者の保健師や患者団体の代表が参加する形が2講義と多彩な内容と変化していた。この背景にはウイルス肝炎に対する医療費助成事業等の制度に年々改正点があること等、肝臓専門医以外の専門職がより深く関与できる領域が増加しているためと考えられる。したがって今後も行政による重症化予防対策や職域の関与する仕事と治療の両立支援等の新たな取り組みが必要な状況が増加することを考えれば、より多彩な肝炎医療コーディネーターを多数育成することが医師のみでは困難な肝疾患患者や家族へのより望ましい対応へと繋がると期待される。

今後コーディネーターの実際の活動状況を具体的にまとめて全国的な活動指針の確立へと発展させるべきである。

E. 結論

肝炎医療コーディネーターは2018年度山梨大学附属病院肝疾患センター事業へ多数が参加しており、多彩な専門性を背景に医師のみでは対応困難な状況で患者・家族へ関与していたことが確認された。具体的な活動事例を蓄積し、全国的な活動指針作成に繋げることが必要である。

F. 研究発表

1. 論文発表

坂本 穰、榎本信幸 【肝癌撲滅に向

けた我が国の取り組み・厚労省、地方自治体、拠点病院の連携】山梨県の取り組み 肝炎コーディネーターの育成. 消化器・肝臓内科 3 巻 3 号 P303-309.2018

2 . 学会発表

坂本 穰、井上泰輔、榎本信幸. 肝疾患の疫学・自然史と診療連携体制の方向性 肝発癌抑止を目指した肝炎診療体制と地域を包括した総合的取り組み. 第54回日本肝臓学会総会 パネルディスカッション2. 肝臓(0451-4203)59巻Suppl.1 Page A124(2018.04)

G . 知的所有権の取得状況

なし

1 . 特許取得

なし

2 . 実用新案登録

なし

3 . その他

なし

